

特定非営利活動法人わらしべ 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人わらしべ という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を秋田県大仙市に置く。

(目的)

第3条 この法人は、社会的弱者に対する偏見がなく豊かな心を育むための活動や学習を通じて、社会的弱者を支援する事業を行い、もって地域社会の融和と福祉に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 環境の保全を図る活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 講習会・セミナー・娯楽イベントの開催に関する事業
- (2) 地域観光振興及びそのPRに関する事業
- (3) 食・心・身体における健康維持及びそれらを育むための事業

第2章 会員

(会員の種類)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促

進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助する個人又は団体で、代表理事が推薦するもの

（入会）

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとする者は、文書で代表理事に申し込むものとする。代表理事は正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 代表理事は、前項の者の入会を認めないときは、速やかに理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

（入会金及び会費）

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

（会員の資格の喪失）

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 本人から退会の申出があったとき
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき
- (4) 除名されたとき

（退会）

第10条 会員は、退会しようとするときは、その旨を文書で代表理事に提出して任意に退会することができる。

（除名）

第11条 会員が次のいずれかに該当するときは、総会において正会員総数の2分の1以上の同意により、その会員を除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 法令、定款等に違反したとき
- (2) この法人の名誉をき損し、設立の趣旨に反し、又は秩序を乱す行為をしたとき

（拠出金品の不返還）

第12条 既に納入した入会金、会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

第3章 役員及び職員

(役員の種類、定数及び選任等)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事3人以上5人以下
- (2) 監事1人以上2人以下
- 2 理事のうち、1人を代表理事、1人を副代表理事とする。
- 3 理事及び監事は、総会において選任する。
- 4 代表理事及び副代表理事は、理事の互選とする。
- 5 役員のうちには、それぞれの役員についてその配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 6 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることはできない。

(役員職務)

第14条 代表理事は、この法人を代表し、業務を総理する。

- 2 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故があるとき又は代表理事が欠けたときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、理事会を構成し、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること
 - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること

(役員任期等)

第15条 役員の任期は2年とする。ただし、補欠のため、又は増員によって

就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

- 2 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。
- 3 役員は、再任されることができる。
- 4 第1項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(役員の解任)

第17条 役員に、職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき、又は心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるときは、総会の議決により、その役員を解任することができる。この場合、その役員に対し、議決をする前に弁明の機会を与えなければならない。

(役員の報酬)

- 第18条 役員には報酬を与えることができる。ただし、役員のうち報酬を受ける者の数が役員の総数の3分の1以下でなければならない。
- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
 - 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

(職員)

- 第19条 この法人の事務を処理するため、この法人に事務局長その他の職員を置くことができる。
- 2 職員は、代表理事が任免する。

第4章 総会

(総会の種別)

第20条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(総会の構成)

第21条 総会は正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第22条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び解散した場合の残余財産の処分
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び収支予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び収支決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 会員の除名
- (9) その他、理事会が総会に付すべき事項として議決した事項

(総会の開催)

第23条 通常総会は、事業年度ごとに年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる事由により開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき
- (2) 正会員総数の5分の1以上から、会議の目的たる事項を記載した書面により招集の請求があったとき
- (3) 第14条第4項第4号に基づき監事から招集があったとき

(総会の招集)

第24条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、代表理事が招集する。

2 代表理事は前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第25条 総会の議長は、その総会において、出席した個人正会員のうちから選任する。

(総会の定足数)

第26条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(総会の議決)

第27条 総会における議決事項は、第24条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。

2 総会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、総会に出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 議決すべき事項について特別な利害関係を有する正会員は、その事項について表決権を行使することができない。

(総会における書面表決等)

第28条 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の個人正会員を代理人として表決を委任することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号の規定の適用については、出席したものとみなす。

(総会の議事録)

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員の現在数

(3) 総会に出席した正会員の数（書面表決者及び表決委任者の場合にあっては、その旨を付記すること。）

(4) 議長の選任に関する事項

(5) 審議事項

(6) 議事の経過の概要及び議決の結果

(7) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び出席した個人正会員のうちからその会議において選任された議事録署名人2人が署名、押印しなければならない。

第5章 理事会

(理事会の構成)

第30条 理事会は、全理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第31条 理事会はこの定款に別に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項、
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項、
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項、

(理事会の開催)

第32条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき、
- (2) 理事総数の3分の1以上から会議の目的を示して招集の請求があったとき

(理事会の招集)

第33条 理事会は、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第34条 理事会の議長は、代表理事がこれに当たる。

(理事会の定足数)

第35条 理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することができない。

(理事会の議決)

第36条 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 議決すべき事項について特別な利害関係を有する理事は、その事項について表決権を行使することができない。

(理事会における書面表決)

第37条 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。この場合において前2条及び次条第1項第3号の規定の適用については、出席したものとみなす。

(理事会の議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事の現在数
 - (3) 理事会に出席した理事の数及び氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (4) 審議事項
 - (5) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び出席した理事のうちからその会議において選任された議事録署名人2人が署名、押印しなければならない。

第6章 資産及び会計等

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 事業に伴う収入
- (5) 資産から生じる収入
- (6) その他の収入

(資産の管理)

第40条 この法人の資産は、代表理事が管理し、その方法は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

- 2 この法人の資産は、これを分けて会計区分に基づいて区分して管理する。

(会計の原則)

第41条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って、行うものとする。

(会計の区分)

第42条 この法人の会計は、次のとおり区分する。

(1) 特定非営利活動に係る会計

(事業年度)

第43条 この法人の事業年度は、毎年5月1日に始まり、翌年4月30日に終わる。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、代表理事が作成し、総会の議決を経なければならない。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由により予算が成立しないときは、予算成立までは、前事業年度の予算に準じて収入支出することができる。

3 前項の規定による収入及び支出は、新たに成立した予算に基づくものとみなす。

4 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第45条 この法人の事業報告書等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第46条 この定款を変更しようとするときは、総会において出席した正会員の4分の3以上の議決を経、かつ、法第25条第3項に定める事項に係わる定款の変更に限り、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第47条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由により解散する場合は、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

4 解散のときに存する残余財産の帰属については、法第11条第3項に掲げる者のうちから総会の議決により選定するものとする。

(合併)

第48条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 雑則

(公告の方法)

第49条 この法人の公告は、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府NPO法人ポータルサイト（法人入力情報欄）に掲載して行う。

(施行細則)

第50条 この定款の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て代表理事がこれを定める。

附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

代表理事	児玉 記幸
副代表理事	田中 康弘
理事	下村 哲也
〃	岡田 良太
〃	宮澤 悦郎
監事	黒澤 寛興

3 この法人の設立当初の役員の任期は、この定款の規定に関わらず、成立の日から平成18年7月31日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、この定款の規定に関わらず、設立総会で定めるものとする。

5 この法人の設立当初の事業年度は、この定款の規定に関わらず、成立の日から平成18年4月30日までとする。

6 この法人の入会金及び会費は、この定款の規定に関わらず、次に掲げる額とする。

(1) 正会員

① 入会金	0円
② 年会費	0円

(2) 賛助会員

① 入会金	0円
② 年会費	個人 一口 50,000円
	団体 任意団体 一口 50,000円
	法人 一口 100,000円

7 この定款の変更は、平成29年7月1日に改訂施行する。

8 この定款の変更は、所轄庁の認証を受けた日から施行する。(令和8年2月20日総会決議)

これは、令和8年2月20日臨時社員総会において変更した当法人の
定款に相違ありません。

秋田県大仙市強首字上野台89-1
特定非営利活動法人 秋田游四季人

代表理事 三浦 奈津子

令和8年度の事業計画書

(令和8年5月1日から令和9年4月30日まで)

特定非営利活動法人 秋田游四季人

(特定非営利活動法人 わらしべ)

1 事業実施の方針

以下の事業を確実に実施することを目標とする。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施予定日時 (B) 当該事業の 実施予定場所 (C) 従事者の 予定人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
①講習会・セミナー・娯楽イベントの開催に関する事業	ペットと泊まれる川口温泉「奥羽山荘」のペットフォトコンテストイベントコラボの活動 ・ペット愛護や話題を共有できる場として限定軽食カフェを無料休憩室にて提供（くつろぎカフェ） ・TNRM 活動 PR として来場者にチラシ配布 ※trap neuter return management（野良猫に不妊去勢手術を行い元に戻した後も、地域で見守り共生していく活動）の啓発活動 ・募金箱を休憩室に設置し TNRM 活動のための募金活動（募金は「象潟港猫を守る会」に進呈予定）	(A) 7 月 (B) 大仙市川口温泉 奥羽山荘 (C) 3 人	(D) 一般市民及び動物愛護賛同者。 (E) 20 人	5
②地域観光振興及びその PR に関する事業	実施予定無し			
③食・心・身体における健康維持及びそれ	刈和野地域の通学路へ小学校児童と行う花植苗の継承と学びの活動	(A) 6 月 (B) 西仙北小学校 刈和野字上ノ代	(D) 西仙北小学校のいずれかの学年の	0

らを育むための事業	・植苗を継続されている奉仕者から地域住民及び子どもたちへ、環境美化活動を継承するためのサポート ・植物や土壌作りの知識と、先人の生態系保持についての知恵を学ぶ ・自ら地域の学校を守ることで少子高齢化社会の中で生きる自立した力を養う	322 番地 校門沿い 100 ㎡ 範囲 (C) 5～10 人	児童 (E) 30 人	
③食・心・身体における健康維持及びそれらを育むための事業	エコツーリズム体験活動 ・木登りをしたり木に触れあったり、せせらぎ遊びなどをして五感を感じる体験 ・浅瀬の優しい溪流で生き物観察など、生態系を知る学び ・「炊き出し作りを提供することへの喜び体験」 ボランティアをつのり、ともに食をわかちあう eat space (先着 30 名) ・参加者の生活支援として服のリユース低額提供 (古着の活用)	(A) 7 月 (B) 大仙市川口温泉 奥羽山荘敷地内 (C) 10 人～50 人	(D) 自然体験に興味のある者。大仙市内の福祉サービス利用者及び家族及び支援員。発達障がい者など (E) 30 人	15

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施予定日時 (B) 当該事業の実施予定場所 (C) 従事者の予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
なし			

令和9年度の事業計画書

(令和9年5月1日 から令和10年4月30日まで)

特定非営利活動法人 秋田游四季人
(特定非営利活動法人 わらしべ)

1 事業実施の方針

以下の事業を実施することを目標とする。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施予定日時 (B)当該事業の 実施予定場所 (C)従事者の 予定人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
①講習会・セミナー・イベントの開催に関する事業	実施予定無し			
②地域観光振興及びそのPRに関する事業	実施予定無し			
③食・心・身体における健康維持及びそれらを育むための事業	「みんなのわらしべ食堂」の活動(年4回実施) ・地産地消食材の推進を図る ・温泉と食を通じて孤立を防ぐとともに、娯楽を交えながら心身ともに健康維持の場所を提供する	(A) 4, 5, 9, 10月 実施予定 (B) 大仙市川口温泉 奥羽山荘 (C) 各回3人～10人	(D) わらしべ 会員優遇 (一般利用有) (E) 各回25人	38
③食・心・身体における健康維持及びそれらを育むための事業	(前年度からの継続) 刈和野地域の通学路へ小学校児童と行う花植苗の継承と学びのサポート活動 【追記】 ・学校側が前年度からの学び	(A) 6月 (B) 西仙北小学校 刈和野字上ノ代 322番地 校門沿い100m範囲 (C) 5～10人	(D) 西仙北小学校のいずれかの学年の児童 (E) 30人	0

	で、土、堆肥、種苗など自主生産可能予定目指す ・上記の内容についてわらしべからサポートあり			
--	---	--	--	--

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施予定日時 (B) 当該事業の実施予定場所 (C) 従事者の予定人数	事業費の 予算額 (単位: 千円)
なし			

8年度 活動予算書
(令和8年5月1日から令和9年4月30日まで)

特定非営利活動法人 秋田游四季人
(特定非営利活動法人 わらしべ)

(単位: 円)

科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費			
賛助会員受取会費	20,000	20,000	
.....			
2 受取寄附金			
受取寄附金			
施設等受入評価益		0	
.....			
3 受取助成金等			
受取民間助成金		0	
.....			
4 事業収益			
〇〇事業収益		0	
5 その他収益			
受取利息			
雑収益		0	
.....			
経常収益計			20,000
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当			
法定福利費			
退職給付費用			
福利厚生費			
.....			
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費			
旅費交通費			
施設等評価費用			
減価償却費			
支払利息			
事業費	20,000		
その他経費計	20,000		
事業費計		20,000	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当			
法定福利費			
退職給付費用			
福利厚生費			
.....			
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費			
旅費交通費			
減価償却費			
支払利息			
.....			
その他経費計	0		
管理費計		0	
経常費用計			20,000
当期経常増減額			0

Ⅲ 経常外収益			
1 固定資産売却益		0	
.....		0	
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
1 過年度損益修正損		0	
.....		0	
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			0
設立時正味財産額			
次期繰越正味財産額			0

※ 当該年度はその他の事業の実施を予定していません。

(注) 重要性が高いと判断される用途等が制約された寄附金等(対象事業等が定められた補助金等を含む)を受け入れる予定である場合は、「一般正味財産増減の部」と「指定正味財産増減の部」に区分して表示することが望ましい。

9年度 活動予算書
(令和9年5月1日 から令和10年4月30日まで)

特定非営利活動法人 秋田游四季人
(特定非営利活動法人 わらしべ)

(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費			
賛助会員受取会費			
.....		0	
2 受取寄附金			
受取寄附金	40,000		
施設等受入評価益			
.....		40,000	
3 受取助成金等			
受取民間助成金			
.....		0	
4 事業収益			
.....		0	
.....		0	
5 その他収益			
受取利息			
雑収益			
.....		0	
経常収益計			40,000
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当			
法定福利費			
退職給付費用			
福利厚生費			
.....			
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費			
旅費交通費			
施設等評価費用			
減価償却費			
支払利息			
事業費	38,000		
その他経費計	38,000		
事業費計		38,000	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当			
法定福利費			
退職給付費用			
福利厚生費			
.....			
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費			
旅費交通費			
減価償却費			
支払利息			
.....			
その他経費計	0		
管理費計		0	
経常費用計			38,000
当期経常増減額			2,000

Ⅲ 経常外収益			
1 固定資産売却益		0	
.....		0	
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
1 過年度損益修正損		0	
.....		0	
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			2,000
前期繰越正味財産額			
次期繰越正味財産額			2,000

※ 当該年度はその他の事業の実施を予定していません。

(注) 重要性が高いと判断される使途等が制約された寄附金等（対象事業等が定められた補助金等を含む）を受け入れる予定である場合は、「一般正味財産増減の部」と「指定正味財産増減の部」に区分して表示することが望ましい。